◆第54回近畿地区国立大学体育大会（陸上競技）◆

日時：平成28年8月11日（木） 於：西京極総合運動公園

【男子】

	1位 大阪大	2位 京教大	3位 大教大	4位 京都大	5位 神戸大
総合	143	136	126	113.5	87.5
（トラック）	（65）	（75）	（72）	（56）	（48）
（フィールド）	（78）	（61）	（54）	（57.5）	（39.5）

【女子】

	1位 京教大	2位 神戸大	3位 大教大
総合	158.5	116	46
（トラック）	（92）	（65）	（35）
（フィールド）	（66.5）	（51）	（11）

【男子】

種目	順位	氏名(学年)	記録　　(風)	備　考
100m		近藤佑哉(2)	11″32 (−1.9)	
		森山和友(3)	11″43 (−0.9)	
200m	7	水野翔太(2)	決 22″53 (−0.8) 予 22″20 (−0.7)	
		近藤佑哉(2)	22″49 (−0.8)	
		八木健人(3)	23″43 (−3.1)	
400m	4	植田悠貴(4)	決 49″54 予 49″88	
		竹島周平(2)	51″01	
		八木健人(3)	51″43	
800m	1	川植大輝(3)	決 1'58″29 予 1'59″02	
	5	南部　慎(1)	決 2'01″39 予 1'59″94	大学ベスト
	6	脇川大誠(2)	決 2'02″55 予 2'00″09	
1500m		藤田竣也(3)	4'04″24	
		山下駿平(2)	4'14″29	自己新　関カレB
		澤田将希(3)	4'19″94	
5000m	7	平井大誠(1)	15'54″24	
		桂　翔太(2)	16'06″49	
		佐久間　啓(1)	16'48″51	
110mH	5	藤原雅志(3)	決 14″94 (−0.6) 予 15″29 (−0.1)	
	6	宮﨑晃一(3)	決 15″28 (−0.6) 予 15″33 (+0.2)	
		山口大地(1)	15″57 (−0.7)	大学ベスト　関カレB
400mH	5	清水和輝(3)	決 55″11 予 55″78	
		藤原雅志(3)	55″44	
		川島稜太(3)	57″90	
3000mSC	3	藤田竣也(3)	9'31″20	
	7	坂元亮介(3)	9'38″38	自己新　関カレA
		根本夏生(1)	10'56″82	
スウェーデンR	4	宮﨑(3)水野(2) 近藤(2)植田(4)	1'57″59	
走高跳	4	佐野　孝(M1)	1m85	
	6	小西　満(1)	1m85	大学ベストタイ
棒高跳	8	早川雄己(3)	3m70	自己新　関カレB
		宮﨑晃一(3)	3m60	
走幅跳	3	永田　遼(4)	7m13 (+0.3)	
	8	大塚健太郎(3)	6m57 (+0.5)	
三段跳	3	神田　実(1)	14m72 (+0.9)	自己新
		山下雄大(M1)	13m56 (+0.0)	
砲丸投	5	太田康介(1)	11m29	
		金澤佳緯(1)	8m06	
円盤投	5	上野環太(3)	37m26	
	8	太田康介(2)	34m92	自己新
		柳田隆光(3)	31m03	
やり投	3	上野環太(3)	54m47	
	7	太田康介(2)	49m70	
		宮﨑晃一(3)	43m34	

男子200m予選　近藤(2)

男子800m優勝　川植大輝(3)

男子5000m決勝　平井(1)

【女子】

種目	順位	氏名(学年)	記録　　風	備　考
100m	5	宮嵜仁美(3)	決 13″05 (−1.9) 予 12″98 (−1.7)	
	7	森下奈菜(3)	決 13″22 (−1.9) 予 13″08 (−0.4)	
		末廣真子(2)	13″14 (−1.4)	自己新
200m	2	森下奈菜(3)	決 26″62 (−1.5) 予 26″81 (−2.3)	自己新
	3	宮嵜仁美(3)	決 26″65 (−1.0) 予 26″91 (−1.5)	
		武村明香(1)	27″54 (−1.6)	
400m	5	明瀬優香(3)	決 1'01″16 予 1'00″57	
		野口ひかり(1)	1'03″75	大学ベスト
800m	1	米田香澄(4)	決 2'16″79 予 2'21″20	
	5	明瀬優香(3)	決 2'18″52 予 2'22″19	
	8	宮崎安奈(1)	決 2'27″98 予 2'24″80	大学ベスト
1500m	1	米田香澄(4)	4'47″97	
	7	秋元麻衣花(3)	5'04″69	大学ベスト
3000m	3	佐々木真子(2)	11'02″65	
(オープン)	8	甲斐麻華(1)	12'15″31	大学初
100mH	3	宮嵜仁美(3)	決 14″49 (−0.3) 予 14″47 (−1.6)	
	4	森下奈菜(3)	決 14″53 (−0.3) 予 14″95 (−1.6)	
	8	武村明香(1)	決 16″03 (−0.3) 予 16″09 (+0.8)	大学ベスト
4×100mR	2	末廣(2)宮嵜(3) 武村(1)森下(3)	49″51	
走高跳	1	日高水樹(1)	1m66	
	3	藤井まりあ(4)	1m60	自己新　歴代4位
	4	永久実伽子(M2)	1m55	
走幅跳	3	藤井まりあ(4)	5m68 (+1.2)	大学ベスト
	5	武村明香(1)	5m57 (+0.6)	自己新　関カレA　歴代3位タイ
	6	末廣真子(2)	5m55 (+1.0)	
砲丸投	1	麓　沙恵(3)	12m63	
	8	永久実伽子(M2)	8m43	自己新
		藤井まりあ(4)	7m40	
円盤投	1	麓　沙恵(3)	★36m10	自己新　★学内新
	7	藤森郁美(4)	23m25	
やり投		日高水樹(1)	26m95	
		麓　沙恵(3)	26m90	
		永久実伽子(M2)	21m65	

女子200m決勝　宮嵜(3)

女子1500m優勝　米田香澄(4)

女子走幅跳決勝　藤井まりあ(4)

砲丸投、円盤投2種目制覇の麓　沙恵(3)

副将:宮﨑晃一

とても高い気温の中であったが、その中でも各々今持っている力を発揮することができていたと思います。女子は今年も総力戦になり総合2位とまずまずの結果を残すことができたように思います。男子としては、実力的に総合で勝負できる状態ではないのでチームとしてよりも個人としての勝負になっていたと感じました。とびぬけていい記録や結果を残せたものはいなかったため部員一同、物足りなさは感じていると思います。今年の対校戦も残り少なくなってきたので、その中でしっかりと勝つところは勝ち、個人個人が力をつけ、チームとしての総合力・結束力を高めていくことが必要であると思います。

女子主将:麓　沙恵

今回の対校戦では女子としては116点で2位という結果でした。元々の得点分析では95点だったので21点を上乗せすることが出来ました。これはチームとして団結して戦えたからではないかと思います。個人としても大学ベストや自己ベストが多く見られ、次への目標をまた見つけることが出来ました。しかし、京都教育大学には44点もの得点差をつけられたので、ここで満足せず少しでも追いつけるように残りのシーズン切磋琢磨していけたらと思います。暑い中、たくさんの応援本当にありがとうございました。

ご来援いただきましたＯＢ・ＯＧの皆様、ご声援ありがとうございました！！(敬称略)

新17椎木茂久　新18平田明男　新21絹田清昭　新32鎌田早苗　新57篠原康男　新62関本泰樹　新63平木　匠　新64渡辺紗妃

近国体観戦記（女子を中心として）

新３２回　鎌田早苗

この暑い時期の大会は選手にとっては大変だと思うが、関東に住む身にとっては８月中旬はちょうど帰省の時期と重なり、応援に来られる貴重な機会である。また、女子が対校戦として戦う数少ない機会なので、今年も元気をもらいにおじゃました。

女子最初のトラック種目は1500m。これまで400mと800mの２種目でチームに貢献してきた米田が、今年は800mと1500mの２種目に出場してきた。決勝時刻の間隔を考えるとこの選択もあると思う。レースは出だしから余裕をもって走っていた米田が終盤に持ち前のスピードで京都大の選手を突き放して4’47”97で優勝。秋元が着実に力をつけて5’04”69の大学ベストで７位に入賞した。秋のシーズンでは４分台の声を聞きたい。スタート前に澤井が声をかけてくれた。走れない苦しさは彼女自身が最も感じているだろう。ランナーとして輝ける時間はそう長くはない。体との相談になるが、卒業までにはスカッとした走りを見せてほしい。

砲丸投では、女子の主将になった麓が６投目に会心の一投、12m63を投げて３連覇。　競技を振り返る間もなくサブトラックで行われる円盤投に向かった。こちらも36m10で自己記録、学内記録を更新した。これまでは自分の競技に集中して結果を出せば良かったが、今後は主将として全体に目を向ける必要ができ、その責任を感じているのだろう。最後のミーティングで「陸上競技は個人の競技だが、対校戦ではチームを意識してほしい、応援も積極的に」と言った言葉に気持ちが表れていた。砲丸投は永久が8m43の自己新で８位、円盤投では藤森が23m25で７位に入賞した。

走高跳では、１回生の日高が1m66で優勝した。落とした1m70も体はほとんど越していた惜しい跳躍だった。練習環境に恵まれない中でのチャレンジが続くと思うが、今後も努力して、ぜひ記録を伸ばしてほしい。この種目では藤井が1m60の自己新で３位、永久が1m55の４位と３名が入賞した。走幅跳は藤井が5m68の大学ベストタイで３位、武村が5m57の自己新で５位、末廣が5m55で６位に入賞した。藤井にとって、後輩たちの活躍はうれしいことだろう。幅跳びのようにうまく世代交代が進むと、チームとしての神大女子の存在感が高まってくるのではないだろうか。

短距離種目は宮嵜、森下が活躍し、３種目で決勝に進んだ。森下は事前資料では100m、200mともに上位８人に入っていなかったが、それぞれ予選で好走して記録を更新し、決勝に進んだ。100mH決勝は宮嵜が14”49で３位、森下が14”53で４位、１回生の武村もよくがんばり、16”03の大学ベストで８位に入った。100mは宮嵜が13”05で５位、森下が13”22で７位。200mは２人とも力強い走りで森下が26”62で２位、宮嵜が26”65の３位だった。

400m、800mは予選、決勝があり、しかも決勝は14時台で20分間隔とプログラム上たいへん厳しい編成になっているが、今年もよくがんばった。明瀬は400mで1’01”16の５位、20分後の800mでも2’18”52の５位だった。常に実力を十分発揮し、得点が計算できる安心感がある。来年は女子のミドルを引っ張る立場として表彰台を目指してほしい。800mは米田が2’16”79で宣言通りの３連覇。西田の後を受けて１年間女子主将としてよく頑張ってきたと思う。中盤まで集団についていた１回生の宮崎も2’27”98で８位に入った。

やり投は神大女子唯一のウイークポイントで、永久、麓、日高の３人が挑戦したが、トップ８には残れなかった。学内記録は平成18年度に樹立されたもの（38m63）で、ここ数年の神大女子のレベルアップから取り残された感がある。専門にできる選手がいるに越したことはないが、冬季練習などで全身の筋力を向上させた上でチャレンジする選手が出てきてほしい。

オープン3000mは佐々木、甲斐の下級生２人が挑戦した。強い日差しの中で２人ともよくがんばり、佐々木が11’02”65で３位、甲斐が12’15”31で８位だった。関西学生女子駅伝はまだ暑さが残る９月に行われる。暑い中でもきっちり距離を走り切れる走力と気持ちの力を備えるべく努力を続けてほしい。

４×100mRは末廣 - 宮嵜 - 武村 - 森下のオーダーで歴代12位に相当する49”51で２位だった。京教大との差も去年より詰まっていたように見えた。

対校得点は、トラック、フィールド、総合ともに京教大に次いで２位だった。事前の戦力分析では60点以上の差がつくことが予想されていたが、実際は44.5点差、京教大には大会新のボーナスポイントも入っているので、順位点だけの勝負では約30点の差になる。200m、800m、1500m、走高跳では互角かそれ以上の戦いができた。一方100mで15点差、やり投で16点差がついているので、この差が少しでも縮まればもっといい勝負ができると思う。　神大女子はほぼフルエントリーができ、近年総合２位が定位置になりつつあるが、それに満足することなく、常に京教大をおびやかす存在であってほしい。

昨年は主幹校として三商大戦を運営、競技した翌日だったため、厳しい戦いにならざるを得なかった男子だったが、今年は元気なパフォーマンスが見られた。

800m は３人が決勝に残った。川植はラスト勝負に勝ち、1’58”29 で優勝、１回生の南部は予選で 1’59”94 の大学ベストを出し、決勝では 2’01”39 で５位、脇川は＋αの４番目で決勝に滑り込んだが、決勝では順位を上げて 2’02”55 で６位だった。

5000m は先頭集団９人を、平井、桂、佐久間の３人が第２集団を形成して追いかける形となった。時々ばらけそうになるのを必死でこらえ、落ちてくる選手を拾っていき、最終的には平井が 15’54”24 の７位、桂が９位、佐久間が 12 位だったが、猛暑のレースを完走した。3000mSC は落ち着いた走りをした藤田が 9’31”20 で３位、~~坂本~~坂元は 9’38”38 で７位に入賞した。藤田は 1500m でも決勝に残っていたが、インターバル 40 分では厳しかったのだろう、決勝を途中棄権したのは残念だった。走幅跳は出場した２人がそれぞれ力を発揮し、永田が 7m13 で３位、大塚が 6m57 で８位に入賞した。円盤投、やり投では上野、太田の２人が頑張った。円盤投は上野が 37m26 で５位、太田が 34m92 の自己新で８位、やり投は上野が 54m47 で３位、太田が 49m70 で７位だった。

今年は複数の選手が決勝、トップ８に残った種目が多く、昨年よりも結果が出ている印象があった。一方、200m、110mH、400mH はあと 0.1 秒のところで決勝進出を逃している選手がいる。ここにこだわり予選を突破できたら、総合成績ももう少し上がったかもしれない。それが、前田先生がおっしゃる「走れているか」という問いかけにつながるのではないかと思う。

また、この暑さの中の大会で大学ベスト、自己新、関西インカレ標準記録突破などを果たした選手が多くいたことは評価できる。神大の目標の一つに関西インカレで男子は１部昇格、女子は８位入賞をあげているが、この達成のためには一人でも多くの選手の参加が欠かせない。そのために記録を意識し、まだの選手はぜひ早い段階での突破を目指してほしい。

男子総合はトラック 48 点、フィールド 38.5 点、総合 86.5 点でいずれも５位だった。得点が取れなかったのは 100m と、出場しなかったハンマー投、途中棄権した 1500m の３種目で他の大学と同程度だが、それぞれの得点が少しずつ少ないことが気になる。トラックでは４位の京都大とは８点差だが、100m と 200m の２種目だけで 25 点差をつけられている。全体で４位になるのは難しいかもしれないが、トラックは何とかなる余地があったのではないかと思う。

今年の夏はリオデジャネイロオリンピックが行われ、陸上競技に限らず、日本選手の活躍にワクワクした。また、パラリンピックも行われ、リハビリテーションの域を大きく超えたアスリートのパフォーマンスが見られるに違いない。オリンピックの陸上競技については、三段跳の山下選手など、人数は少ないが国立大学の学生、または卒業生もいた。また、棒高跳の荻田選手など関西の大学を卒業した選手、3000mSC の高見澤選手など、地方の大学の学生、卒業生もいた。国立大だから、地方だから、という理由をなしにして、大きく 2020 年の東京を目指すくらいの大きい夢をもって、でも、足元をしっかり見据えた目標をもって、今後の練習に向き合い、競技に向き合ってほしい。今年も部員のみなさんの様子から元気をもらうことができ、感謝している。